

靴生産量日本一 兵庫県豊岡市の地域ブランド「豊岡靴」

漁網再生生地を利用した靴を製作

～SDGs(持続可能な開発目標)の取組を発表～

兵庫県靴工業組合(事務局:兵庫県豊岡市/理事長 由利 昇三郎)と同「豊岡靴」地域ブランド委員会(委員長 橋本 浩)は、一般社団法人 ALLIANCE FOR THE BLUE(事務局:東京都港区/代表理事 堀口 瑞穂)と連携し、海洋プラスチックごみの削減など海洋環境への負荷削減を実現する廃漁網を再生した生地を使った靴を開発し、7月21日(水)東京丸の内「豊岡靴 KITTE 丸の内店」にて発表いたしました。さらに、食品廃棄物を再活用し革の鞣しや染色に利用したサステナブルレザー「レッザ・ポタニカ/富田興業株式会社」を使用した靴と環境に配慮した製造工程にて作られた高耐久の新素材「クオーレ/セーレン株式会社」を使用した靴も同時に発表し、関心を持つ多くの方が会場を訪れ終始賑わいをみせました。

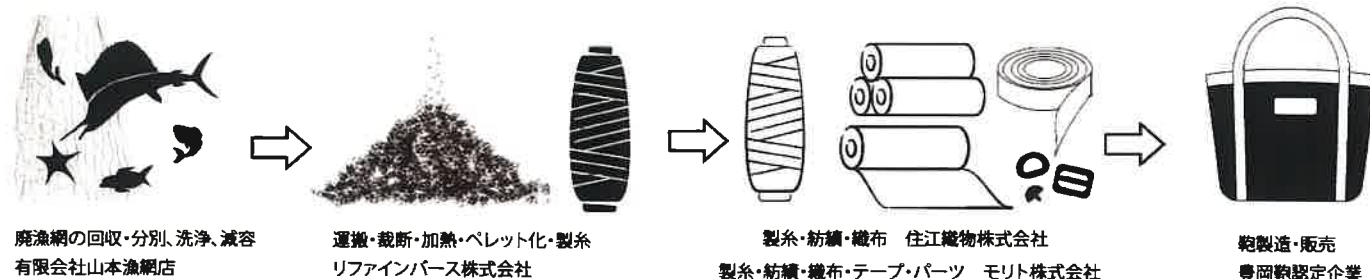
100年後も豊かな海と靴に支えられた街であるために

豊岡市は「海の近く」にある「靴の街」です。気候変動への対応や海の豊かさを守るために、つくる責任(製造業)と使う責任(漁業者・製造者・利用者)をより善く果たすために、靴に関わる多くの人と協働で取り組む事は未来の子どもたちや社会への責務だと考えています。豊岡靴では、以前よりサステナブルな取組として、廃棄革を活用して革小物を作るブランド「豊岡小物」や靴を修理して長く使ってもらう修理専門会社など、環境に配慮した取組を積極的に行ってきました。地域に根ざした地場産業として、海や山などの自然を守り産業を持続させて行く事が大切であると考えています。

《漁網再生素材》

SDGsの14番目の項目に掲げられているのが「海の豊かさを守ろう」。増え続ける海洋プラスチックゴミの内、廃漁網を有効利用する取組を一般社団法人 ALLIANCE FOR THE BLUE との連携で、漁網再生生地(Re-amide(リアミド)/リファインバース株式会社)を使った靴を豊岡靴として売り出す。

漁網再生プロセス



回収された廃漁網は裁断・加熱されペレットにしたあと、製糸・紡績・織布され生地にし、豊岡靴認定企業により、靴へと生まれ変わります。

《サステナブルレザー レッザ・ボタニカ》

ワインの製造工程にて発生するブドウの搾りかすの多くは、産業廃棄物として捨てられています。富田興業株式会社は、まだ多くのポリフェノールが含まれている搾りかすを、革の鞣しや染色に利用した革を開発しました。代表的な皮の鞣し方法は、植物タンニン鞣し、クロム鞣し、オイル鞣しなどがありますが、「レッザ・ボタニカ」は、皮の鞣しや染色に、植物由来の副産物を再活用したサステナブルな革なのです。



※ぶどうの搾りかす



※レッザ・ボタニカ



※しなやかでナチュラル、深みのある発色が印象的。

《高耐久 新素材クオーレ》

セーレン株式会社により、開発した合成皮革「クオーレ」は、“本革を超えた新素材”がコンセプト。また、製造における環境負荷物質を極力使用せず製造された製品は、本革の1/2の軽量化と10年以上の耐久性を誇る環境に優しい新素材。



※本革を超える驚きの新素材



※ビジネスにもカジュアルにもマッチ

《豊岡の鞆産業》

日本の鞆生産の中心地として千年の歴史を持つ兵庫県豊岡市。鞆関連事業者が狭い地域に集積し、企画・製造・検品を全て地域内で行っている日本唯一の鞆集積地。現在では、鞆関連企業180社以上、日本一の生産量を誇るまでに発展しました。

《豊岡鞆とは》

2006年「豊岡鞆」が特許庁の地域団体商標に登録(工業製品として全国初の登録)。

豊岡産の鞆の中でも、兵庫県鞆工業組合が定めた基準を満たす企業によって生産され、審査に合格した製品を「豊岡鞆」ブランドとして認定。

《豊岡鞆誕生の背景》

OEM 中心であった豊岡の鞆作り。製造の現場が海外へシフトしていくなか衰退する地場産業の復興をかけた「豊岡鞆」は誕生しました。鞆製造だけでなく、人材の育成にも力をいれる。日本初の鞆の専門校「アルチザンスクール」や「鞆縫製者トレーニングセンター」は、全国から職人を目指す若者が集まる。職人を育てる産地としても注目を集める。

報道関係者からのお問い合わせ先

(主催者)兵庫県鞆工業組合

担当:天野(info@toyooka-kaban.jp)

TEL:0796-23-7833 FAX:0796-24-2697

当リリースは7月21日時点の情報です。内容は変更となる可能性があります。